



まごころサマーキャンプ

まごころサマーキャンプ

7月17日(日)から18日(月)にかけて、障害者の自立を考える父親の会「ちゃれんじ堂」さん主催の宿泊研修会(サマーキャンプ)が開かれました。

毎年恒例のこの行事、今年は場所を文京から赤見に移して実施しました。児童デイを利用されている児童とご家族、スタッフの総勢43名の参加があり、プールやアウトドアクッキング、花火に銭湯、スイカ割りといった様々な体験を通じて交流されました。



当日は好天に恵まれ、夏らしい日差しの中でアウトドアの活動を楽しめました。普段と違う日程や環境にも関わらず、「去年よりも落ち着いてるなあ」と年々参加する子ども達の成長が感じられました。

また、今年も「お父さん」の参加が多く、貴重な交流の機会となったと思います。

ご協力頂いたみなさん、ありがとうございました。



日本語おもしろい

坪内忠太著 新講社 より



◇ヒマワリの花は本当に太陽の方を向いて回るか？

ヒマワリはもともと北アメリカで「インディアンの花」といわれていたものが、スペイン人によってヨーロッパに伝えられた。種子から植物油が取れ、そのままでも食べられるのでフランス、ロシア、ウクライナなどでは広大なヒマワリ畑で栽培が行われている。太陽の向きに首を回す不思議な花ということでつけられた和名だが、この動きはつぼみの期間の成長期だけの現象で、花が咲くと動かなくなる。

生活援助について(その2)

▼家族同居と生活援助

生活援助は原則として、ひとり暮らしか同居家族等が障害や疾病等のため、家事を行うことが困難な場合に給付されます。このため介護者が就労している日中独居の要介護者に対して、生活援助サービスが制限される事例が多く見られました。

単身世帯以外はすべて「家族同居の世帯」であり、家族が同居していれば、生活=衣食住に問題はないとも言えません。同居している家族の状況によって「家族の援助力」(家族の機能)は違うのです。

▼利用者と同居家族の状況をアセスメント

同居家族のいる利用者の状況を踏まえた、適切なケアプランが作成される点で、生活援助を受けなければ日常生活にどのような支障を生じるかという視点を持ってアセスメントを行う必要があります。どの家事ができる、できないのかを判断して、生活援助の導入の必要性を検討することが重要です。

本当に必要なサービスを過不足なく提供する。ケアマネジャーや訪問介護事業所のサービス提供責任者の適切なケアマネジメントが問われるところです。



心づれ



遺言書のすすめ

朝日税理士法人 税理士 鹿島兼一

私は税理士という仕事柄、相続税申告という場面で沢山の相続に関わってきました。相続という相続争いをイメージされる方もありますが、多くの場合、円満に解決しています。しかし身内同士で醜い相続争いがあるのも事実です。相続争いは多額の相続財産にのみ起こるかと思われ勝ちですが、決してそうではありません。少ない相続財産でも起こります。相続争いを防止する簡単で最も有効な方法は遺言書の作成です。

相続できる人は法律で決められていて、配偶者(妻又は夫)は常に相続人となり、子がいれば子が相続人になります。子がいない場合は親が、そして親がいない場合は兄弟姉妹が相続人になります。子がいない夫婦の場合は、例えば夫に相続が発生すると妻と夫の親(又は兄弟姉妹)が相続人になりますので、遺言書がないと他の相続人に相続財産がいたり、少なくとも遺産分割協議書に頭を下げて署名押印をもらわねばなりません。遺言書があればそういったことが不要になりますので、子がいない場合は遺言書の作成を強くお勧めします。

一般的に作成される遺言書の大半は「公正証書遺言」と「自筆証書遺言」です。二つの方法には一長一短がありますが、費用がかかっても確実にということなら「公正証書遺言」を、あまり費用をかけたくないなら「自筆証書遺言」が良いでしょう。

相続税法が改正されると、妻と子2人の標準世帯の基礎控除額が8,000万円から4,800万円になります。相続税の申告納税しなければならない人が増えるでしょう。相続税対策を考えると短期決戦型の対策はあまり望ましくありません。計画的な長期戦略が良いでしょう。そのような時は専門家の智恵を借りると良いでしょう。例えば3人に毎年各110万円贈与しても、10年間で3,300万円無税で贈与できます。

ミニデイだよ



来年はああしよう。こうしよう。

7月も終わったばかりだというのに、早くからの暑い日々と、台風や大雨などの自然の猛威に脅威を感じる今年の夏です。それでも、まごころ広場の前の公園では、濃い緑の木々が夏の暑さを和らげてくれています。

「暑いから散歩は、やめとこ」とおっしゃられていた利用者さんも、思い切って外に出て、木陰のベンチに腰かけると「風が気持ちいいから、もう少しここにいるわ」との声。心が安らぐのも、また自然の力だと感じます。

今年は一宮七夕飾りを竹に取り付ける日が、ミニデイ開催日と重なったので、昼食後のひと時、一宮駅まで見に行くことができました。他の施設・団体さんの作品を間近で見ることができ、「こうすると目立つのね」「来年は、この材質のものを使おう」「こういう形にすると、雨に強いんでない？」などと、たくさんの案が次々にでてきました。「来年も元気でおらんといかんなあ。」そうです、そうです。頼りにしてるんです！

コンクールでおひつじ座賞をいただいたIQボールと児童デイで作製した「まごころくん」



IQボールは120ピースの紙片を組み合わせてミニデイのみなさんが作ってくれました